

news paper

#3

TODAY'S RACE Rd.4
AUTOPOLIS
5.20 SAT/21 SUN

www.inging.co.jp



INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

レースは
支配できていた

*get 2nd
again!*

RACE ARCHIVE
Rd.3 SUZUKA CIRCUIT

STAY HUNGRY



SUPER FORMULA 2023
P.MU/CERUMO INGING RACE REPORT

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

RACE ARCHIVE Rd.3 SUZUKA CIRCUIT

レースアーカイブ Round.3 鈴鹿サーキット

決勝 4月23日(日) 坪井翔がフロントロウとなる予選2番手、阪口晴南が10番手と、2台ともに上位を見据えるグリッドを獲得することができた。P.MU/CERUMO・INGING。この勢いを繋げるべく、チームは4月23日(日)の決勝日に臨んだ。今回は二輪ロードレースとの併催ということもあり、タイムスケジュールとしてはやや遅めとなる午前11時05分から行われた決勝日のフリー走行で、P.MU/CERUMO・INGINGは燃料を積んだ状態でセッティングを確認していった。富士スピードウェイでの第2戦での決勝ペースも良好だったことから、その再現を狙っていた。



坪井は単独走行を続けてゆく

午前フリー走行の後、8分間のウォームアップを経て、午後3時45分に迎えた決勝レース。気温21度、路面温度36度というコンディションのなか迎えたスタートだったが、5番手の#5 牧野任祐がグリッド上でストール。エクストラフォーメーションラップが行われ、レースは30周で争われることになった。スタートでは坪井はやや蹴り出しが遅れたものの、2番手をキープして1コーナーへ入っていく。ポールポジションスタートの#53 大湯都史樹は序盤からブッシュを続け、一方で3番手の#1 野尻智紀は後方から#15 リアム・ローソンに追われることに。坪井は序盤単独走行を続けていった。

抜群のスタートを決める阪口

一方、10番手から阪口は抜群のスタートを決めると、1周目を6番手で終える。さらに#15 ローソン、#3 山下健太にかわされた#1 野尻が4周目には阪口の前に近づいてきた。ただ逆に、今度は#20 平川亮、#37 宮田莉朋が阪口の背後に接近。熾烈な上位陣のなかでオーバートイクシステムとタイヤを駆使しながらのバトルとなっていった。



両者ピットイン 果敢な攻防戦へ

序盤、レースは膠着状態となっていたが、10周を終えピットウィンドウがオープンすると、P.MU/CERUMO・INGINGはアンダーカットを狙い、まず阪口がピットへ。翌11周には坪井がピットインした。チームは迅速な作業で2台を送り出すが、コースに復帰した坪井の後方からは、阪口と同じ10周でピットインした#15 ローソンが抜群のアウトラップを終え坪井の後方に接近してきた。ここでかわされてしまえば#15 ローソンに封じ込まれてしまう。坪井は1コーナーでマシンを前に入ると、冷えたタイヤで果敢な走りを見せ#15 ローソンをディフェンス。さらに13周目には1分40秒620、翌周も1分40秒950とファステストラップを記録すると、猛ブッシュで#15 ローソンを離し、ピットイン組のトップに立った。

坪井トップを奪取 まさかのセーフティカーラン

ただ中盤、まだピットインを行っていない車両が坪井の前方に近づきペースを乱されてしまう。まだピットインせずに先頭にいる#53 大湯との位置取りが気になっていた。そんななか19周を終え、#53 大湯がピットインを行う。ここで坪井はその横を通過しトップを奪うことに成功した。ただ直後、#53 大湯は後方から迫った#1 野尻とS字でクラッシュ。レースはセーフティカーランとなったが、これがP.MU/CERUMO・INGINGにとっては好ましくない展開となってしまった。



リスタート後 白熱のトップ争いへ

24周目、リスタートを迎えると坪井は隊列をしっかりとコントロール。スパートをかけ、24周目には1分40秒230とファステストラップを更新する。しかし、後方からはセーフティカー時にピットインした#37 宮田莉朋がファステストを更新しながら追撃してきた。残り周回数も少なくなるなか、白熱のトップ争いが始まった。

両者、渾身の力を振り絞る

坪井はトップを死守しようと渾身の力を振り絞ったが、#37 宮田はオーバートイクシステム残量は少なかったものの、何よりニュータイヤを履いておりペースが優っていた。29周目、メインストレートで仕掛けてきた#37 宮田に対し、坪井は抵抗をみせるも1コーナーでオーバートイクを許すことに。ファイナルラップに坪井は懸命に首位を迫るも及ばず、2戦連続の2位でレースを終えることになった。一方の阪口は、ペースは苦しかったものの中団で#3 山下、#4 小高一斗と接近したレースを展開。6位でレースを終えることになった。P.MU/CERUMO・INGINGは2台が入賞を果たしたが、一抹の悔しさが残る一戦となった。



INTERVIEW Sho TSUBOI #38

38号車ドライバー 坪井翔

レースは支配できていた

あのタイミングでセーフティカーが出られては厳しくなってしまう。なんとか2位で終わりましたが、終盤5周は苦しかったです。とはいえこのスーパーフォーミュラというレベルが高いシリーズで連続2位を獲得するのはなかなか

悔しい結果となりましたが、レースは支配できていたと思いますし、しっかりと前に出てトップ争いを常にできる状態でレースができたと思います。前回の2位とは異なる、内容が濃い2位だと思っています。正直、



臨機応変に対応してくれたチームに感謝

Sena SAKAGUCHI #39
39号車ドライバー 阪口晴南

スタートは良かったですね。第1戦で失敗してから、第2戦で良かったので、今後も強みになると思っています。その後もオープニングラップで1台を抜くことができたのでそれが良かったです。ただその後のペースは良くなかったため、6位という結果に比べると内容が悪かったレースでした。またピットインのタイミングを臨機応変に対応してくれたチームに感謝しています。状況を考えたら、6位はこの上ない結果になったのではないのでしょうか。鈴鹿での最上位ですね。次戦のオートポリスは昨年良い結果を残すことができましたが、今年に向けてはあまり参考にならないかもしれません。とはいえ、やりたいことはあるので、レースに活かしていきたいです。

ポジティブな週末だった

Yuji TACHIKAWA #37
チーム監督 立川 祐路

井選手にとっては悔しいレースになってしまいましたね。戦略としてはすごくうまくいっていましたが、セーフティカーが出てしまったのが大きく響いてしまいましたね。坪井選手は精一杯頑張ってくれましたし、チームも完璧な仕事をしてくれました。とはいえ前回の富士、そして今回とトップを争えているので、こういうレースを続けていれば自分たちの番は回ってくると思います。その点ではポジティブな週末だったのでないでしょうか。阪口選手についても6位と、昨年の不調からは着実に良くなってきています。今後トップ争いにも加わられると思っています。今回は悔しいレースでしたが、その気持ちを次戦にぶつけたいです。応援ありがとうございました。

get 2nd again!

To be Continued...

Results	38	予選 2位	決勝 2位	39	予選 10位	決勝 6位
	坪井翔			阪口晴南		

アプリをDL後、ドライバーを登録して応援しよう!

38 Sho Tsuboi 坪井翔

39 Sena Sakaguchi 阪口晴南

スマホで登録

PCで登録 <https://sfgo.jp/>